

あなたの夏は休みどき？

井 上 琢 智

前年収穫された稲の穂から塩水で選びぬかれた種もみは、消毒などの下準備を経て苗床に播かれ、4週間ほどで15センチほどまでに育って苗となり、田に植えられます。太陽と水と人の手を煩らわせた稲は、田から水を抜く「中ぼし」を経て、出穂・登熟・成熟していきます。それが夏の季節。稲にとって夏は、休みでなく、成長の時です。

4月に入学・進級した皆さんは、7月の今、苗床で田植えを待つ苗ですか。田植えを終えて身体に栄養分をため込んでいる稲ですか。それとも、この夏休みこそが「中ぼし」の時だと満を持しているところですか。いやいや、以前から進められてきた計画に従って、すでに出穂の時期を迎えようとしている人もいるかも知れませんが、登熟の時期だという人も、成熟の時期を迎えている人もいるかもしれません。なかには、これまでの生活に区切りをつけて、この夏を使って、自らの下準備にかかろうとしている人もいます。

いずれの段階にあなたがいようと、大切なことは、人はそれぞれ希望をもち、それを実現しようとする固い志をもち、行動することではないでしょうか。でも、それだけでは不十分です。その希望を実現するためには、適切な時期を待たなければなりません。田植えの時期や中ぼしの時期を間違えると、その後の稲の生長はかたまりません。科学的な分析ができなかった時代にあつては、連綿と重ねられた経験や生活の知恵がその時期を知らせてくれました。しかし、自分の適切な時期を知るにはまずは自分しかありません。それもあくせくと忙しい生活を送っている日常にあつては、その時期を掴むのは困難です。日常を離れて非日常の世界に入る必要があります。夏こそ、その格好の時期でしょう。機械時計をはずし、携帯電話を手放し、アイポッドを耳から外し、書物さえ手放して、文明の利器のない世界に入りませんか。体内時計、水の音、鳥の声、風のささやきだけを頼りとする、沈思黙考の世界に入りませんか。そのような夏は、あなたにとって夏休みではなく、次のステップのための貴重な下準備となるでしょう。大学時代にしかできない貴重な経験になると思うのですが。

(経済学部教授・副学長)